



6月ほけんだより



2024年度
松葉保育園
看護師内山

ゴールデンウィークも終わり、新しいクラスにもだいぶ慣れてきた子ども達。最近では夏日になる日もあり、これからは温度・湿度ともに高くなり、梅雨の季節がやってきます。天気の変わりやすい梅雨の時期は、体調を崩しやすいので、十分に注意が必要です。衣服の調節にはいつも以上に気を配るよう、ご家庭でもご協力お願い致します。

5月の感染症

感染性胃腸炎 …4名(0歳児1名・1歳児3名)

6月の保健行事

3日(月) 身体測定(たけ・きく・ゆり・すみれ・なでしこ・すずらん)

4日(火) 身体測定(もも)

13日(木) 春の健康診断 (全クラス実施)

予防接種について 下記は定期接種となります。

期限を過ぎると自費となってしまいますので、早めの接種を推奨いたします。

たけ組 1歳になったら、MR(麻疹風疹)ワクチン1回目接種

きく・ゆり組 3歳になったら、日本脳炎ワクチン1回目・2回目接種

すみれ組 4歳になったら、日本脳炎ワクチン追加接種

すずらん組 小学校入学する前までに、MRワクチン2回目接種



※下記は任意接種となりますが、予防効果を確実にするために、2回接種が必要です。

おたふくかぜワクチン 1回目 1歳を過ぎたら早期に接種(たけ組)

2回目 小学校入学前の1年間(すずらん組)

食中毒に注意!

食中毒は、細菌などに汚染された食品や水、食器、手指、便などから感染します。

集団感染が起きることも多いので、園では十分な配慮を行っています。梅雨から夏にかけて食中毒の発生が増える時期、ご家庭でも、より衛生的に過ごすよう心がけてください。

主な食中毒の種類

O-157(病原性大腸菌の一種)

激しい腹痛や水様性の下痢、血便、嘔吐、発熱などが起き、脱水症状も伴います。特に子供は重症化しやすく、最悪の場合、命に関わることもあります。症状によっては入院が必要です。下痢が激しいときは、イオン飲料などで脱水症状を防ぎます。



サルモネラ菌

食中毒の原因のトップで、主に卵や肉類など菌に汚染された食品によって感染します。また、イヌ、ネコ、ミドリガメなどペットの排泄物からも感染することがあります。



動物を触ったあとは、きれいに手を洗うようにしましょう。10~72時間程度の潜伏期間のあと、発症。吐き気や嘔吐、腹痛、下痢、発熱が起こり、4~5日続きます。

腸炎ビブリオ

海中の泥などに生息する菌で、魚介類を介して感染します。発生率も高い食中毒です。感染後、1日以内に激しい腹痛と吐き気、嘔吐、下痢などの症状が起きます。発熱はあまりなく、ほとんどの症状は、数日以内に治まります。



カンピロバクター菌

ニワトリ、牛、豚など家畜の腸にすむ細菌で、イヌ、ネコ、ネズミも保菌しています。これらの排泄物が水や食品に混入することで感染し、低温に強い菌のため、秋や冬でも注意が必要です。3日ほどの潜伏期間のあと、下痢や腹痛、発熱、嘔吐のほか、血便、頭痛、筋肉痛が見られるのが特徴です。特に子供は血便が出やすい傾向があります。



ボツリヌス菌

土の中や海中の泥に繁殖している菌で、空気を嫌う傾向があり、缶詰や真空パックの食品の中でも増殖します。熱や消毒に強いのが特徴です。感染から3~4日で発症し、吐き気、嘔吐、下痢、腹痛などのほか、脱力感や倦怠感、めまいが起き、重症化すると、ものが二重に見える、声が出にくくなるなど神経症状が現れます。



ハチミツには、少量のボツリヌス菌が含まれていることがあります。消化器の未熟な乳児が食べると突然死の原因になることもあるので、1歳前後までは、絶対に避けてください。
※ヤクルトなど

